

平成 26 年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No.5）

平成 26 年 7 月 8 日

鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

複数の地域でずり込み症状を呈するほ場が発生し、一部では周辺ほ場への感染も確認された。

今後、曇雨天が続くことが予想されている。したがって、ほ場の見回りを行って、いもち病の早期発見に努め、状況に応じた適切な対応を取ることが必要である。

2 発生状況等

- (1) 7月4日現在、複数の地域でずり込み症状を呈するほ場が発生し、一部では周辺ほ場への感染拡大が確認された。また、葉いもち発生ほ場も散見され始めている。
- (2) プラストムによる葉いもちの感染好適条件又は準感染好適条件は、6月29日、7月4～7日にかけて出現した（表1）。したがって、7月11～13日にかけて、新たな病斑が発生する可能性が高い。
- (3) 7月3日発表の気象1か月予報によると、期間の前半は平年と比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。

表1 プラストムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	湖山	岩井	青谷	智頭	倉吉	米子	下市	境	茶屋
6/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/29	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6/30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/3	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
7/4	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●
7/5	-	-	-	-	●	-	●	-	-	○
7/6	●	-	●	●	-	●	●	●	●	○
7/7	●	●	●	-	●	●	●	-	●	○

注) ●感染好適日、○準感染好適日

3 防除上注意すべき事項

- (1) 置き苗は、本田へのいもち病の伝染源となるので、早急に処分する。
- (2) 本田において上位葉に急性型病斑がみられる場合には、治療効果を有する粉剤、水和剤などを散布し、その後は病勢に応じて追加防除を行う。
- (3) 育苗箱施用を行っていても十分な効果が得られない場合があるため、ほ場の見回りを徹底し、早期発見に努める。
- (4) 降雨が続く場合でも雨の止み間に防除を行い、適期を失しないようにする（粉剤散布後3時間程度降雨がなければ防除効果は十分にある）。
- (5) 県内の一部地域でストロビルリン系薬剤耐性イネいもち病菌の発生が確認されている。ストロビルリン系薬剤を使用したほ場では、いもち病の発生状況に十分注意し、防除効果の低下が疑われる場合は、速やかに病害虫防除所または関係指導機関に連絡する。